

目的・
目標

「写真」は文化交流のツールとして最適なもののひとつであり、グローバルなネットワークを構築し、経済、人、情報の循環を生み、有益な情報、人材、資本をもたらすことができる。本プロジェクトは「写真」分野のクリエイターを育成することによって、これらの可能性を最大限に引き出し、日本の経済活性化と文化促進を図ることを目的とする。

概要

国際写真祭(展示)とアートフェア(マーケットプレイス)を同時に開催する環境を最大限に活用し、そこに集まる人材、あるいは展示や発表の機会を用い、次世代を担う作家、批評家、キュレーターを育成する。

- ①国際的に活躍する審査員によって優れた作家を選出し発表機会を提供。
- ②そうした作家の作品をコーディネートし国内外で展示を行えるコーディネーターを育成。
- ③そうしたフェスティバルでの展示機会に合わせて批評や評論を執筆し国内外に向けて発表する機会を生み出す。上記を通じて次世代の育成へとつなげていく。

(分野・ジャンル)

・現代アート / 写真

(渡航先の国・地域)

・パリ / アルル(フランス)、ほか

(国内外の連携・協力体制)

・美術館、図書館、大学、フォトフェスティバル、アートフェアとの連携

3年目までの取組

「T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO」(展示)と「T3 PHOTO ASIA」(フォトフェア)というプラットフォームを活用し、国外の美術館キュレーターや批評家等を招聘し、育成対象アーティストやキュレーター、批評家との交流や展示・批評の実践の場を実現する。また、海外のアートフェア/フェスティバルと連携し、育成対象者の活躍の場を海外へと展開。それらの活動を書籍およびウェブサイトにてアーカイブし、広くその知識を共有する。

海外招聘ゲスト

サンドラ・フィリップス サンフランシスコ近代美術館
アン・モース ボストン美術館
アン・ハヴィンガ ボストン美術館
ダンカン・ワールドリッジ 批評家/キュレーター
エリン・オトゥール サンフランシスコ近代美術館
マーク・フーステル キュレーター
サム・バーズレイ Photovilleディレクター
ダイアン・デュフル LE BAL
キム・ジョンウン IANN BOOKS
キム・ジヘイ アリゾナ大学研究者 他

5年目までの取組

3年目までの活動によって築いたネットワークなどを活用し、海外の大学/美術館等と連携して写真/批評に関するレクチャーやシンポジウムを展開する。また、海外の美術館において、育成対象キュレーターと海外キュレーターによる共同企画展を実現し、日本の「写真」を軸とした文化活動をグローバルに展開するモデルケースを創り出すことを目標とする。



中核となるクリエイターやアドバイザー

全体統括責任者：速水惟広 (T3 ファウンダー)
アーティスト育成：太田睦子 (編集者)
キュレーター・コーディネーター育成：菅沼比呂志 (キュレーター / 大学教授)
批評家育成：千葉由美子 (ギャラリスト)

育成対象者：12人

- ・アーティスト5人
新進・中堅作家を対象(推薦・一部公募)
- ・キュレーター/コーディネーター2人
主要美術館学芸員やインデペンデントキュレーターからの推薦
- ・批評家5人
先行2名選出後、追加3名

成果目標(見込)

目標値

企画段階から海外公演等々に登用される若手クリエイター等の数	12人
国内外の団体・企業等との連携数(連携団体数、事業提携数、拠点形成数など)	75件
プロジェクトに関わる海外アーティスト・キュレーター等の数	40人
国内外で展開される公演・展示等の数	7回
国内外で展開される公演・展示等の入場者数	235,000人

4つのキーとなる活動



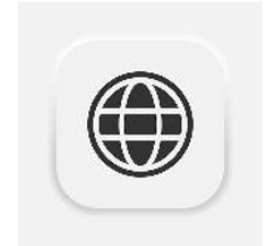
①国内外のキュレーター、批評家によるネットワーク構築、情報共有、日本写真の理解促進を目的としたレクチャー、シンポジウム



②海外美術館での展示をゴールとした国内外の写真祭、フォトフェアにおける展示



③対象作家の作品および批評家によるテキストを国内外のキーパーソンへと届けるためのバイリンガル作品集・批評集の出版



④左記の活動を記録し誰もがアクセス可能なものとするウェブアーカイブ事業

上記の4つの活動を、東京で開催される国際写真祭「T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO」、そして新たなアートフォトフェア「T3 PHOTO ASIA」を軸に展開します。国際的なアートイベントとフォトフェアが活動の舞台となることで、海外のフォトフェスティバル、フォトフェア、美術館、ギャラリーとの連携を実現し、本プログラムを通じて、世界で活躍するアーティスト、キュレーター、批評家が生まれる環境を創り出します。

【補足資料2】

